

令和 3 年度 SIP 第 2 期課題評価結果を踏まえ
令和 4 年度予算配分の方針等について

令和 4 年 3 月 3 日
ガバニングボード決定

戦略的イノベーション創造プログラム運用指針に基づき、ガバニングボードが招聘する外部の専門家（別紙 1 参照）で構成する課題評価 WG を開催し、各課題の評価を実施した。ガバニングボードにおいて、課題評価 WG の課題評価意見を踏まえ、令和 3 年度の課題評価結果を決定する。

評価 WG においては、SIP 第 2 期の開始後 4 年目、研究開発期間が残り 1 年間であることを踏まえ、「令和 3 年度における SIP 第 2 期課題評価の進め方について（令和 3 年 6 月 24 日ガバニングボード決定）」に基づき、設定した目標の達成度や SIP の目的とする社会実装の実現可能性に焦点を当てた評価を行った（別紙 2 参照）。

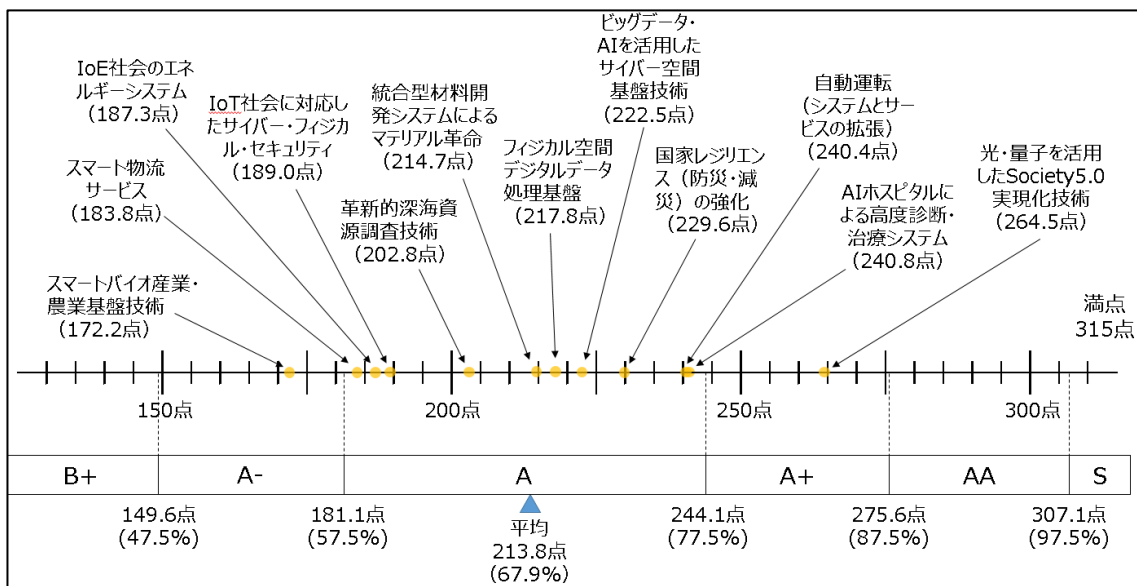
令和 3 年度 SIP 第 2 期課題評価では、平成 30 年度から令和 2 年度課題評価における評価基準・評価項目との整合性及び継続性を確保するため、7 段階（S、AA、A+、A、A-、B+、B）評価を引き続き採用し、評価を行う。具体的には、課題評価 WG で取りまとめた課題評価結果案を踏まえ、「SIP の制度評価及び課題評価について」（平成 30 年 8 月 2 日ガバニングボード決定）に定める標語の適用を審議し、「課題評価のランク付け」及び「次年度予算への反映」について別添のとおり決定する。

「次年度予算への反映」については、「令和 4 年度の SIP 予算配分の考え方について」（令和 3 年 12 月 23 日ガバニングボード了解）を踏まえて決定する。

なお、各課題において、課題評価結果を踏まえ、①各研究開発計画の見直し、②次年度の予算配分、③その他の対応策に反映するものとし、その内容を令和 3 年度末までに事務局（内閣府 SIP 総括担当）に提出し、プログラム統括（課題評価 WG 座長）の確認を取ることとする。また、プログラム統括は、必要に応じ、令和 4 年夏頃（具体的な時期は別途調整）に、課題評価結果に対する対応の進捗状況について、PD からヒアリングを行うこととする。

「課題評価のランク付け」及び「次年度予算への反映」方針

1. 課題評価 WG での課題評価(採点結果)と「課題評価のランク付け」



2. SIP 第2期課題評価のランク付け

「SIP の制度評価及び課題評価について」(平成 30 年8月2日ガバニングボード決定)に定める「第2期課題評価のランク付け」に基づく評価と標語に対し、満点 315 点に対する得点率をもって7段階のランクの閾値(平均 213.8 点(得点率 67.9%)をAの中心点とし、±約 10%の点をそれぞれランクの区分け)とした。

評価	標語	ランク付け (得点率)
S	極めて挑戦的な高度な目標を達成し、実用化・事業化も十分見込まれており、想定を大幅に上回る成果が得られている。	$S \geq 307.1 (97.5\%)$
AA	適切に設定された目標を大幅に達成しており、実用化・事業化も十分見込まれており、想定以上の成果が得られている。	$307.1 (97.5\%) > AA \geq 275.6 (87.5\%)$
A+	適切に設定された目標を達成しており、実用化・事業化も十分見込まれるなど、想定以上の成果が得られている。	$275.6 (87.5\%) > A+ \geq 244.1 (77.5\%)$

A	目標の設定・達成ともに概ね適切であるなど、当初予定どおりの成果が得られている。	244.1 (77.5%) > A ≥ 181.1 (57.5%)
A-	目標の設定又はその達成状況が十分ではないなど、予定を下回る成果となっている。	181.1 (57.5%) > A- ≥ 149.6 (47.5%)
B+	目標の設定又はその達成状況が極めて不十分で、予定を大幅に下回る成果となっている。	149.6 (47.5%) > B+ ≥ 118.1 (37.5%)
B	目標の設定、その達成状況その他大きな改善を要する面がみられる。	118.1 (37.5%) > B

3. 次年度予算への反映

- (1) 「令和4年度の SIP 予算配分の考え方について」(令和3年 12 月 24 日ガバニングボード了解)に基づき、令和4年度の当初配分額は、令和3年度当初配分額(追加配分額を除く。)から8%減額した額を基準額とし、課題評価 WG の結果を踏まえて一定の割合で増減を図り、配分を行うこととする。
- (2) 「ビッグデータ・AI を活用したサイバー空間基盤技術」については、令和4年度に SIP 課題を含めた分野間データ連携基盤技術の連携拡大を計画しており、基準額に追加で予算を配分する必要性について、評価 WG において予算配分可否の評価を実施した。評価の結果、配分可能との評価となったため、当初配分とあわせて配分を行うこととする。
- (3) 令和4年度が SIP 第2期の最終年度であることを踏まえ、繰越予算がある場合は、課題担当と調整の上、令和4年度配分額の減額を行う。
- (4) 予算が SIP 第2期の事業期間内で執行されるように、令和4年度においては、原則として、年度途中での予算の追加配分は実施しないこととする。

前項及び上記を踏まえ、課題評価結果を踏まえて令和4年度当初配分基準額からの増減率を決定する。

評価	令和4年度当初配分基準額からの増減率	課題評価結果を踏まえた課題ごとの令和4年度当初配分基準額からの増減率
S	+50%以下	(該当なし)
AA	+30%以下	(該当なし)
A+	+10%以下	「光・量子を活用した Society5.0 実現化技術」は、+3%とする。
A	0%以下	「光・量子を活用した Society5.0 実現化技術」、「スマートバイオ産業・農業基盤技術」を除く 10 課題は、±0%とする。

A-	▲10%以下	「スマートバイオ産業・農業基盤技術」は、-3%とする。
B+	▲30%以下	(該当なし)
B	事業中止を検討	(該当なし)

なお、上記の次年度予算は政府予算成立をもって確定するものであるため、政府予算成立を仮定し検討するものである。

(参考) 追加配分案件の評価結果

○課題名「ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術」

追加配分案件名「分野間データ連携基盤の連携拡大」

SIP各課題はそれぞれが Society5.0の実現につながる重要テーマであり、それらを対象にデータ基盤連携が可能になることはメルクマールとしても有意義であるため、追加配分は妥当である。

(別紙1)

令和3年度SIP第2期課題評価WG委員名簿

◎座長

須藤 亮 内閣府政策参与・SIPプログラム統括

○委員

小豆畑 茂 元 株式会社日立製作所 フェロー
五十嵐 仁一 ENEOS 総研株式会社 代表取締役社長
江崎 浩 東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授
岡崎 健 東京工業大学 科学技術創成研究院 特命教授
小栗 久典 弁護士法人内田・鮫島法律事務所 パートナー弁護士
君嶋 祐子 慶應義塾大学 法学部・大学院法学研究科 教授
小宮山 宏 株式会社三菱総合研究所 理事長
小向 太郎 中央大学 国際情報学部 教授
白井 俊明 元 横河電機株式会社 フェロー
竹中 章二 池上通信機株式会社 技術顧問
林 いづみ 桜坂法律事務所 弁護士
藤野 陽三 城西大学 学長
吉本 陽子 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 経済政策部 主席研究員

(敬称略、五十音順)

(別紙2)

課題評価 WG における審査の視点と配点

A. 課題目標の達成度（技術競争力、達成度、出口戦略等）（満点 200 点）

審査の視点	配点
① 国際競争力	10
② 研究成果で期待される波及効果	10
③ 達成度（1）（今年度の設定目標に対する達成度）	50
④ 達成度（2）（終了時の目標の達成見込み）	40
⑤ 達成度（3）（社会実装の実現可能性）	60
⑥ 知財戦略、国際標準化戦略、規制改革等の制度面の出口戦略	10
⑦ 成果の対外的発信	10
⑧ 国際的な取組・情報発信	10

B. 課題マネジメント（目標、実施体制、マッチングファンド、連携等）（満点 115 点）

審査の視点	配点
ア) 研究開発目標	-
① Society5.0 の実現を目指すもの。	10
イ) 実施体制	-
② 社会実装を実現するためのマネジメント体制が構築されているか。	20
③ 研究テーマに対する評価、マネジメントが適切に実施されているか。	20
ウ) SIP の特徴	-
④ 民間から適切な負担を求めているか。官民の役割分担が適切になされているか。	10
⑤ マッチング額が十分に計上されているか。	20
エ) 連携	-
⑥ 府省連携が不可欠な分野横断的な取り組みとして実施されているか。	10
⑦ SIP 第2期で実施する他の課題との連携が適切に図られているか。	5
オ) その他	-
⑧ 上記のア)～エ) 以外に、マネジメントの観点から評価すべきこと（プラス評価になること）があれば追加可。	20

以上